

## 1 研究の概要

### (1) 研究主題

児童生徒が互に関心をもち支え合う学級集団づくりを目指して  
 ー「ピア・メディエーションに関する活動プログラム」の効果的な進め方を探るー

### (2) 主題設定の趣旨

<子供の現状>

近年、少子化や核家族化、地域社会の変化などによって児童生徒の人間関係が希薄になり、いじめや不登校などの生徒指導上での様々な問題が深刻化しています。特に、文部科学省の調査において、いじめの認知件数は平成26年度から平成27年度にかけて、全国では188,072件から224,540件と19.3%の増加、佐賀県においては、283件から351件と24.0%の増加となっています。また、いじめ防止対策推進法の施行に伴い、「平成28年度佐賀県教育施策実施計画」においても、いじめの未然防止に向けた取組を更に充実させることが求められています。

<活動プログラムの効果的な実践に向けて>

池島徳大は、「いじめの最大の予防は、思いやりのある人間関係の形成と良質なコミュニケーションの育成を図ること」<sup>(1)</sup>とし、「ピア・メディエーションの学校教育への導入は子どもたちの社会性を育むうえで非常に有効である」<sup>(2)</sup>と述べています。ピア・メディエーションとは「子供同士による調停」を意味し、子供同士のトラブルやもめごとに対して、子供同士で解決を図ろうとする活動のことです。これらを踏まえて、平成26・27年度佐賀県教育センター「プロジェクト研究」では、いじめ等の深刻な問題に発展する前のトラブルやもめごとの段階で解決する方法を学習するための「ピア・メディエーションに関する活動プログラム」(以下、活動プログラム)を作成しました。活動プログラムでは、ロールプレイング等のペアやグループでの活動を取り入れています。授業が進むにつれて、活動の形態を個人、ペア、グループへと広げていき、児童生徒が徐々に関わりを深めていくように計画しています。しかし、活動プログラムを作成するための試行授業を行う中で、ペアやグループでの活動に対して抵抗感を示す児童生徒や活動が停滞する場面が見られました。そのため、授業前後の取り扱い事項として、児童生徒の心理面への配慮や次時へつなげる手立てについて展開案に追記しましたが、その具体的な内容や方法の効果については明らかにすることができませんでした。

<本研究のねらい>

本研究では、活動プログラムを効果的に進めるために、授業前後に取り扱う内容や方法の効果を探り、児童生徒が互に関心をもち支え合う学級集団づくりを目指すこととしました。小学校の『学習指導要領解説 特別活動編』では、「人間関係を形成するための基本的な知識や方法などについて、ロールプレイングやグループで練習するような手法を効果的に取り上げる」<sup>(3)</sup>とあり、グループ活動において感じたことを率直に話し合う(シェアリング)ための一つの手法として意図的なグルーピングが挙げられています。中学校、高等学校においても、生徒に対する十分な配慮をした上でロールプレイング等を活用する必要性が挙げられています。ロールプレイング等の活動を円滑かつ効果的に進めるためには、児童生徒の心理面に配慮することが不可欠であり、活動するペアやグループの構成が重要です。これらのことから、児童生徒の実態や発達段階に応じて、ペアやグループを意図的に構成し活動させることにより、児童生徒が自分と異なる他者との仲間意識を育み、学級集団においてよりよい人間関係を築くことにつながるのではないかと考えます。

以上のことから、小・中・高等学校において、活動プログラムの効果的な進め方を探ることにより、児童生徒が周りの出来事に関心をもち、周りの人と積極的に関わり、互いに支え合う人間関係を築くことにつながると考え、本主題を設定しました。

**(3) 研究目標**

小・中・高等学校において、児童生徒の実態や発達段階に応じた活動プログラムの効果的な進め方を探ることにより、児童生徒が互いに興味をもち支え合う学級集団づくりを目指す。

**(4) 研究方法**

- ア 先行研究や文献におけるロールプレイング等の場面での意図的なグルーピングについての理論研究
- イ 小・中・高等学校における集団や個人についての実態把握を踏まえた意図的なグルーピングの構成の検討
- ウ 小・中・高等学校における活動プログラムの実践及び考察

**(5) 研究内容**

- ア ロールプレイング等の場面における意図的なグルーピングについての先行研究調査や文献研究を行いました。
- イ 小・中・高等学校において、学級集団及び学年集団並びに個人についての実態把握を行い、意図的なグルーピングの構成について検討しました。
- ウ 小・中・高等学校において、活動プログラムを実践して児童生徒の変容を考察し、活動プログラムの効果的な進め方を探りました。

## 《引用文献》

- (1)(2) 池島 徳大 「いじめ解決の視点とピア・メディエーション導入の意義」  
『月報 司法書士』 2013年6月 p.16
- (3) 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 特別活動編」 平成20年8月 p.117

## 《参考文献》

- ・文部科学省 「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」  
平成26年度、平成27年度
- ・文部科学省 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」 平成20年7月
- ・文部科学省 「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」 平成21年7月
- ・佐賀県教育センター 『支え合う人間関係を築くための支援の在り方』  
ーピア・メディエーションに関する活動プログラムの開発ー 平成27年  
[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h27/01\\_kyouikusoudan/index3.htm](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h27/01_kyouikusoudan/index3.htm)